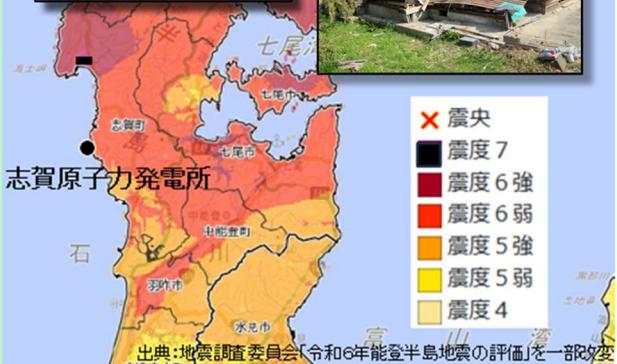


さよなら原発ヒロシマの会2025年総会・講演会

能登半島地震の
推定震度分布



写真：児玉一八さん撮影

講演

能登と原発

～1.1地震が明らかにした
原子力防災の問題点～

講師

理学ジャーナリスト
核・エネルギー問題
情報センター理事

児玉一八さん

原発が立地する能登半島で、昨年元日に発生した地震によって明らかになった最大の問題は、大地震と原発の重大事故が同時に起こったならば、住民の命を守るはずの原子力防災計画がまったく役に立たないということです。このことは島根原発や伊方原発など、日本の他の原発にも当てはまります。

約40年にわたって原発問題に向き合ってきた児玉一八さんに、能登半島地震での被害はどうだったか、志賀原発はどんな被災をしたのか、この地震によって原子力防災対策のどんな問題が明らかになったのか、などを語っていただきます。

日時

2025年6月21日(土)
13:10~15:30

第1部 年次総会 13:10~13:50

原発をなくし、自然エネルギーへの
流れをつくりましょう

2025年度賛同金をお願いいたします(1口千円)

第2部 講演会 14:00~15:30

「能登と原発」(講師:児玉一八さん)

どなたでも参加できます(資料代 300円)

児玉一八(こだま かずや)

理学ジャーナリスト。1960年福井県武生市(現在、越前市)生まれ。1980年金沢大学理学部化学科在学中に第1種放射線取扱主任者免状を取得。1988年金沢大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士、理学修士。専攻は生物化学、分子生物学。現在、核・エネルギー問題情報センター理事、原発問題住民運動石川県連絡センター事務局長

著書:単著として『活断層上の欠陥原子炉 志賀原発』(東洋書店)、『身近にあふれる「放射線」が3時間でわかる本』(明日香出版社)、『原発で重大事故ーその時、どのように命を守るか?』(あけび書房)。共著として『放射線被曝の理科・社会』(かもがわ出版)、『しあわせになるための「福島差別」論』(同)、『さし迫る原発の危険』(リベルタ出版)、『福島事故後の原発の論点』(本の泉社)、『福島第一原発事故10年の再検証』(あけび書房)、『福島の甲状腺検査と過剰診断』(同)、『科学リテラシーを磨くための7つの話』(同)、『気候変動対策と原発・再エネ』(同)、『どうするALPS処理水?』(同)など

会場

合人社ウェンディひと・まちプラザ 北棟5階 研修室AB
(広島市まちづくり市民交流プラザ)
広島市中区袋町6-36(袋町小学校西)

「袋町」電停またはバス停から徒歩3分
「紙屋町東」電停から徒歩6分
アストラム「本通駅」から徒歩6分

★ヒロシマ・アピールウォーク

(脱原発行動:第1・第3金曜日)

国泰寺公園を 夕方6時に出発

中電前を通って、元安橋まで

「原発なくせ」と粘り強く訴えましょう。

さよなら原発ヒロシマの会

広島市中区大手町 4-2-27-403

TEL:082-245-2501 FAX:082-245-2502

URL: <http://zeronpphiroshima.daa.jp>

E-mail:info@zeronpphiroshima.daa.jp